

## 日・韓・中 三か国の国際学術交流

副会長／国際学術交流促進委員会委員長  
木原 活信（同志社大学）

今期より国際学術交流促進委員長の役を担わせていただいております木原活信です。今回、3カ国学術交流覚書に基づくはじめての大きなイベントのホスト国という大役を引き受けることとなり、準備がばたばたしましたが、委員の皆様のご協力により、なんとか無事に終えることができました。

今回の国際学術シンポジウムは、テーマは「韓国・中国・日本における社会福祉運動の発達とその特徴」です。その趣旨は、各国の社会福祉の発達において、いろいろなボランティア・アクション、市民運動、住民運動、作業所・施設づくり運動、自立生活運動、等々、幅広い社会福祉運動がどのように社会福祉政策・制度・実践に成長や影響をもたらしたかを振り返ること、そして、その根底にある価値や思想から社会福祉運動の特徴を明らかにすることです。現在くり広げられている社会福祉運動の課題とは何かについて、また国際的視点から今後の社会福祉運動はどのようにあるべきか等について論じることができました。発題者は、韓国社会福祉学会代表：崔元奎氏（全北大学／韓国社会福祉学会会長）、中国社会学会社会福祉専門研究委員会代表：劉軍強氏（中山大學）、日本社会福祉学会代表：永岡正己氏（日本福祉大学名誉教授）でした。各国の社会福祉の運動の特徴をそれぞれが報告してくださり、またその後の討論も議論が噛み合い、有意義な時となりました。コーディネーターは、国際学術交流促進委員の浅野貴博氏（ルーテル学院大学）が担っていただきました。

国際シンポジウムに先立つ前日には、「韓国・中国における社会福祉研究の最新動向と国際比較研究の現状」というワークショップを行い、互いに議論することができました。発題者は、韓国社会福祉学会代表：鄭茂晟氏（崇實大学／崇實サイバー大学）、中国社会学会社会福祉専門研究委員会代表：房莉傑氏（中国社会科学院社会学研究所）、コーディネーターは、国際学術交流促進委員の阪口春彦氏（龍谷大学短期大学部）が務めました。そこでは社会福祉研究の最新動向および各国での国際比較研究の現状や課題について報告がありました。また、日本で研究する留学生達や国際比較研究に関心を持つ研究者・大学院生達に対する研究視点、研究に関する情報収集の仕方等への助言もありました。後半の時間は、参加者によるグループ・ディスカッションを行いました。その後、今年は、ランチ・ミーティングを行い、生協食堂で温かい食事をいただきながら親しく交流することができました。

いずれの会議も、予想以上の人数の参加者があり、交流も深まり成功裏に終わることができたことは皆さまのご協力の賜物であったと思っています。